



- 特別レポート -

5分で分かる！絶対に失敗しない
初心者のための仮想通貨マニュアル

～ これであなかも、明日から自信を持って仮想通貨取引に参加できる！～

■ 著作権について

「5分で分かる！絶対に失敗しない初心者のための仮想通貨マニュアル」(以下、本冊子と表記)は、著作権法で保護されている著作物です。本冊子の著作権は、発行者(THE FINAL)にあります。本冊子の使用に関しましては、以下の点にご注意ください。

■ 使用許諾契約書

本契約は、本冊子を購入した個人・法人(以下、甲と称す)と発行者(以下、乙と称す)との間で合意した契約です。本冊子を甲が受け取り開封することにより、甲はこの契約に同意したことになります。

第1条 本契約の目的: 乙が著作権を有する本冊子に含まれる情報を、本契約に基づき甲が非独占的に使用する権利を承諾するものです。

第2条 禁止事項: 本冊子に含まれる情報は、著作権法によって保護されています。甲は本冊子から得た情報を、乙の書面による事前許可を得ずして出版・講演活動および電子メディアによる配信等により一般公開することを禁じます。

特に当ファイルを第三者に渡すことは厳しく禁じます。甲は、自らの事業、所属する会社および関連組織においてのみ本冊子に含まれる情報を使用できるものとします。

第3条 損害賠償: 甲が本契約の第2条に違反し、乙に損害が生じた場合、甲は乙に対し、違約金が発生する場合がございますのでご注意ください。

第4条 契約の解除: 甲が本契約に違反したと乙が判断した場合には、乙は使用許諾契約書を解除することができるものとします。

第5条 責任の範囲: 本冊子の情報の使用の一切の責任は甲にあり、この情報を使って損害が生じたとしても一切の責任を負いません。

■ 推奨環境について

このレポートに記載されている URL はクリックできます。できない場合は最新の AdobeReader を下記のページよりダウンロードしてください。(無料)

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

目次

1. ビットコインって何？	4
▪いつ誕生したの？	4
▪どんな仮想通貨が人気なの？	5
2. 仮想通貨と他の金融商品の違いは？	7
▪一番の魅力は価格変動の大きさ	7
▪リターンが大きい分、リスクも大きい	7
3. 取引所ってなに？	9
▪取引所ってどこも一緒なの？	10
▪取引所を選ぶ為のポイントは？	11
4. 仮想通貨って他にもあるの？	12
▪仮想通貨には大きく2種類あります。	12
▪アルトコインは何種類くらいあるの？	12
▪ビットコインは1種類だけ？	13
5. ビットコインをもっと知ろう	15
▪通貨の単位は2つある	15
▪発行量の上限が決まっている（上限 2,100万コイン）	15
▪管理団体が存在しない	15
▪24時間いつでも取引可能	15
6. ICOってなに	16
7. ビットコインをタダで貰う方法	17
8. 税金ってかかるの？	18
9. 仮想通貨で成功する秘訣	19
▪情報源がしっかりしている情報をつかもう	19
▪コミュニティを利用しよう	19
▪目的・ルールを明確にしよう	20
よくある5つの質問	21
最後に	22
付録	23

1. ビットコインって何？

■いつ誕生したの？

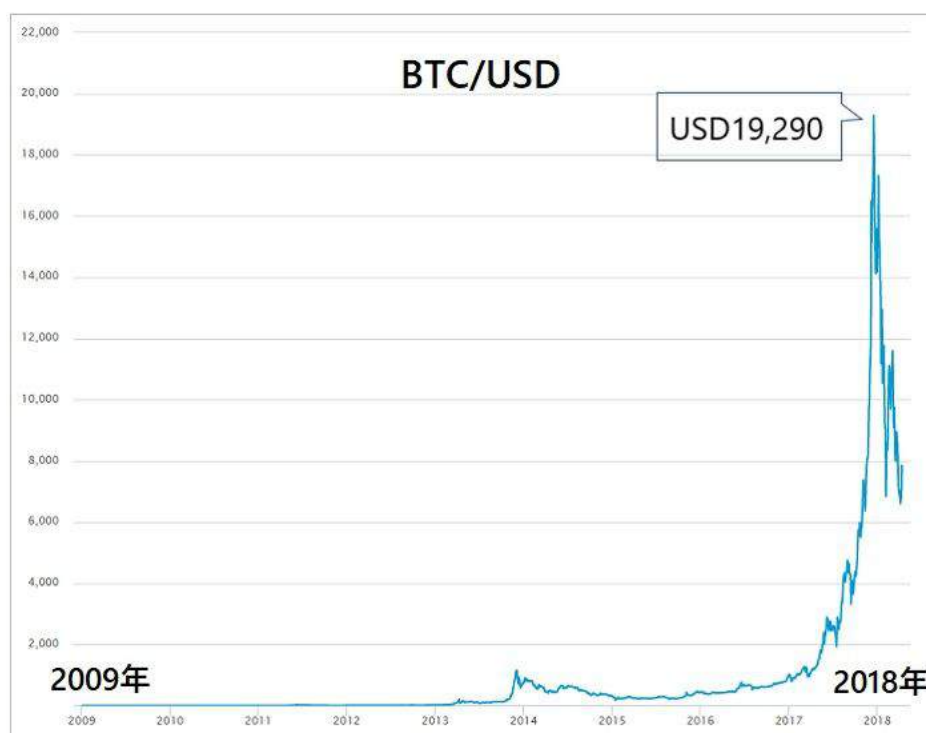
ビットコイン（Bitcoin）は仮想通貨と言われ、インターネット上で取引されるものとして作られたもので、デジタルデータに価値をもたせたものになります。そのため法定通貨である「円」や「ドル」や「ユーロ」などのように、紙幣や硬貨のような実物はありません。

じつは仮想通貨が誕生したのは、2009年までさかのぼります。

2009年3月、キプロスが金融危機で預金封鎖された際に、資金の逃げ場になったのがこのビットコインとされています。

その後、2013年12月に中国において、中国人民銀行が金融機関によるビットコインの取り扱いを禁止したり、2014年には仮想通貨取引所のマウントゴックスが経営破綻したり、色々な出来事が起こりながら、その価値は徐々に上がっていきました。

そして2017年、投資家の間で注目を浴び、その価値は一気に上昇しました。



そして、2017年4月には、日本で改正資金決済法が施行され、それまで仮想通貨は「モノ」として扱われていたものが、財産的価値が認められるようになりました。

日本では2016年に成立した新資金決済法の下では、「仮想通貨」は「物品を購入し、若しくは借り受け、又は役務の提供を受ける場合に、これらの代価の弁済のために不特定の者に対して使用することができ、かつ、不特定の者を相手方として購入及び売却を行うことができる財産的価値であって、電子情報処理組織を用いて移転することができるもの」又は「不特定の者を相手方として相互に交換を行うことができる財産的価値であって、電子情報処理組織を用いて移転することができるもの」と定義されている。

(出典) 仮想通貨-wikipedia

■どんな仮想通貨が人気なの？

このビットコインですが、その取引量においては日本がTOPを占めています。

もともとは中国が取引量の面で上位にいましたが、中国政府の規制が強まったことでその取引量は一気に減少。その結果、現在は日本が1位となっています。

日本では、多くの投資家が参入し、それに合わせてメディアも取り上げることで大きな話題にのぼるようになりました。

現在、仮想通貨はビットコインだけではなく、色々なコインが存在します。

例えば、取引高が上位のものを上げると、現在のTOP5位はこちらです。

- 1位：ビットコイン
- 2位：イーサリアム
- 3位：リップル
- 4位：ビットコインキャッシュ
- 5位：イオス

仮想通貨時価総額ランキング TOP5 ※2018.5.2現在

No.	仮想通貨名	時価総額（単位：億円）
1	Bitcoin（ビットコイン）	170,036
2	Ethereum（イーサリアム）	73,767
3	Ripple（リップル）	36,591
4	Bitcoin Cash（ビットコインキャッシュ）	25,301
5	EOS（イオス）	17,206

（参照）<https://tokens.morningstar.co.jp/>

これをみれば、やはりビットコインが圧倒的なことがよく分かります。

現在は、これ以外にも多くの種類のコインが誕生し、仮想通貨全体の時価総額の規模もどんどん伸びています。

この数字からも、いま仮想通貨自体が世界中で関心をもたれ、投資の対象として注目されているのが分かります。

2. 仮想通貨と他の金融商品の違いは？

ビットコインを代表とする仮想通貨が、FXや株式、投資信託などの他の投資商品などどこが違うのか、少しまとめてみたいと思います。

■一番の魅力は価格変動の大きさ

投資の対象として考える場合、どれだけ大きく稼げるかという点は重要なポイントです。

昨年末に240万近くまで上がったビットコインが、年が明けて60万円台まで一気に下落。現在は100万円前後を推移しています。（※2018年5月2日現在）

ドル円の為替相場などと比べても、1日の値動き幅も大きく上下します。

これだけ大きな価格変動が起こる商品は、投資対象としては、大きな利益を生むことができるので、かなり魅力的です。

■リターンが大きい分、リスクも大きい

ここでしっかりと理解しておかなければいけないことがあります。

それは、リターンが大きいということはリスクも大きいということです。昨年末、ビットコインが100万円を超え、200万円に向かって一気に上昇していた頃、「これからもどんどん上がる！」というブームに乗って、200万円近くの価格の時に購入して、年が明けて一気に下落。資産を半分、1/3に減らしてしまった人も多く生まれています。

短期的に一気に利益を得られる可能性があるということは、同時に、一気に資産を減らすリスクも有ることをしっかりと知っておく必要があります。

これを回避するためには、仮想通貨の知識を身につけたり、分散投資をおこなうなど、しっかりとしたリスク管理をすることも重要です。



3. 取引所ってなに？

海外に旅行に行く際に、空港に通貨を交換してくれる交換所があるように、仮想通貨にも仮想通貨同士を取引できる取引所というものがあります。

ここでは、その時点の取引レートで、仮想通貨を取引できます。

この取引所には、大きく日本国内の取引所と海外の取引所があります。主な取引所は以下の通りです。

【国内取引所】

- ・ [Zaif \(ザイフ\)](#)
- ・ [bitFlyer \(ビットフライヤー\)](#)
- ・ [QUOINEX \(コインエクステンジ\)](#)
- ・ [GMOコイン \(ジーエムオーコイン\)](#)
- ・ [bitbank \(ビットバンク\)](#)
- ・ [DMMbitcoin \(ディーエムエムビットコイン\)](#)

※4/25現在、coincheckは新規の口座開設を停止中。

【海外取引所】

- ・ [Binance \(バイナンス\)](#)
- ・ [Bittrex \(ビットレックス\)](#)
- ・ [BitMEX \(ビットメックス\)](#)
- ・ [Kucoin \(クーコイン\)](#)
- ・ [HitBTC \(ヒットビーティーシー\)](#)

■取引所ってどこも一緒なの？

これだけたくさんある取引所ですが、取引所によって細かい部分で違いがあります。

どんな違いがあるのかというと、例えばこんな違いがあります。

- ・取り扱っている仮想通貨の種類
- ・取引をする際の手数料
- ・利用する際のセキュリティチェックのレベル
- ・独自コインによる割引サービス
- ・付加サービスの有無 など

例えば、国内最大手の取引所のビットフライヤーが現在取り扱っている主な仮想通貨コインは以下の7種類だけですが、

- ・BTC（ビットコイン）
- ・ETH（イーサリアム）
- ・BCH（ビットコインキャッシュ）
- ・ETC（イーサリアムクラシック）
- ・LTC（ライトコイン）
- ・MONA（モナコイン）
- ・LISK（リスク）

海外最大手のBINANCE（バイナンス）では、ビットコイン建てで約120種類（※2018年4月19日現在）の仮想通貨が取り扱われています。

また、国内取引所のZaif（ザイフ）では、手数料が安かったり、または仮想通貨の積立メニューなどがあったりします。

■取引所を選ぶ為のポイントは？

取引所を選ぶポイントとしては、金融庁による「仮想通貨交換業者一覧」を参照にすることをおすすめします。これまでは自由にサービス提供が行われていた取引所ですが、詐欺被害やトラブルなどが増えたことで、今後はこの登録を受けていない業者は交換所として取引をすることができなくなってきます。

色々な取引や手続きの手数料についても、よくチェックする必要があります。取引回数が増えれば、その分だけ手数料負担が大きくなります。

また、利用者の数や日々の取引量も注意したい部分です。ユーザー数や取引量が少なければ、いざ交換したい場合に、なかなか取引が成立しないという事態も起こりうるからです。

さらに、セキュリティ面もしっかりとチェックしたい部分です。今年はじめ、コインチェックという国内取引所が、セキュリティの甘さからハッキングされ、580億円相当のNEM（ネム）という仮想通貨が消えた事件は、記憶に新しいところです。

4. 仮想通貨って他にもあるの？

仮想通貨には、ビットコインの他にも色々な種類があります。ここでは、仮想通貨全体について詳しくお話したいと思います。

■仮想通貨には大きく2種類あります。

仮想通貨には大きく2種類のコインがあります。

1つはこれまで説明してきたビットコイン。もう一つはアルトコインです。このアルトコインというのは、ビットコイン以外のコインの総称のことです。

ちなみに、このアルトコインの「アルト」というのは、「別の」という意味なので、このような呼ばれ方をしています。



■アルトコインは何種類くらいあるの？

アルトコインにはどのくらいの種類があるのかと言うと、2,000種類以上あると言われており、現在も日々新しいコインが生まれています。

ただし、代表的なアルトコインのイーサリアムのように、様々な目的で使われている主要なコインとは違い、本当に限られた目的だけに使われているもの

や、実際にはほとんど使われていないものも多く含まれています。また、国内で取引できるのは、ごく少数の種類に限られます。

■ビットコインは1種類だけ？

では、ビットコインは1種類だけなのかというと、1種類だけになります。ただ、中には「ビットコイン」という名前のつくコインが他にもあります。

具体的には、

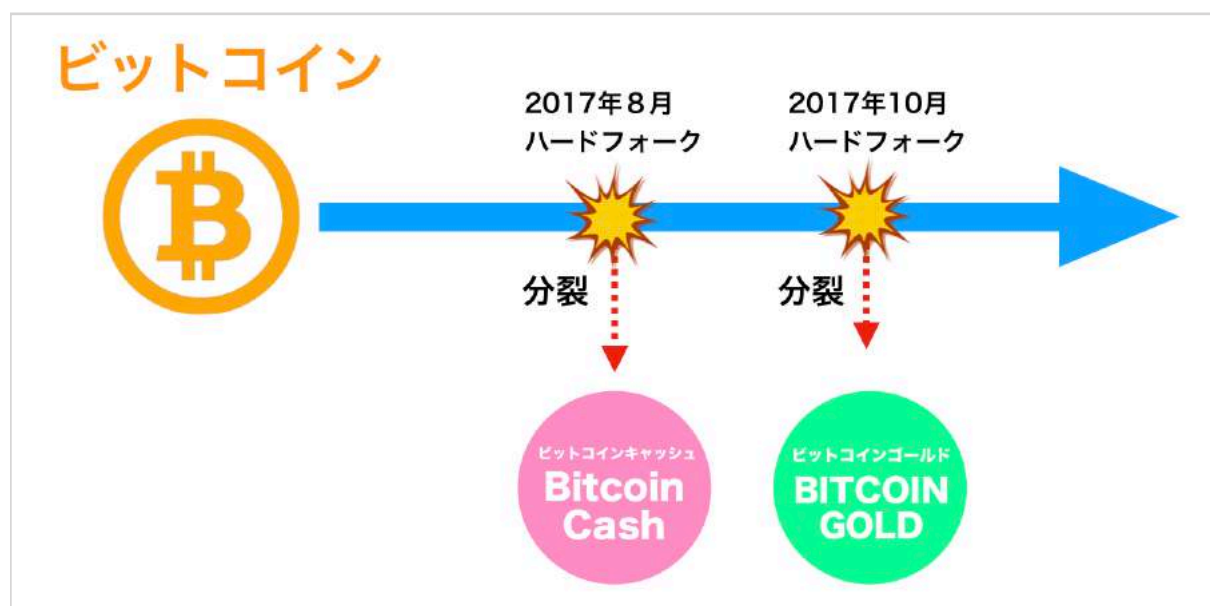
「ビットコインキャッシュ」

「ビットコインゴールド」

というコインです。

これは、ビットコインが「ハードフォーク」と呼ばれる「コインの分裂」によって生まれたものになります。

ハードフォークというのは、これまでのルールとは互換性のない新しいルールを適用させて、従来のものから分裂した「新しいコイン」を作る手法です。



ビットコインの場合は、ビットコインの既成のブロックチェーンから分かれて、新しいブロックチェーンが過去に2回、作られたことがありました。

これがこの「ビットコインキャッシュ」と「ビットコインゴールド」になります。2017年8月にビットコインキャッシュが、同年10月にビットコインゴールドがハードフォークにより生まれています。

ちなみに、、、

この2つのコインは、ビットコインという名前がついていますが、分類としては「アルトコイン」に分類されます。

5. ビットコインをもっと知ろう

ここまで読んできて、仮想通貨の概要について少しずつ理解できてきたと思います。ここではもう少しビットコインについて知っておきましょう。

■通貨の単位は2つある

ビットコインには、じつは2種類の通貨の単位があります。

1 BTC (ビット) の他に、1 Satoshi (サトシ) という単位があります。
※これは、開発者のサトシ・ナカモト氏の名前がその由来になっています。

単位はこのようになります。

$$1 \text{ Satoshi} = 0.00000001 \text{ BTC}$$

■発行量の上限が決まっている (上限 2,100万コイン)

ビットコインは発行量は初めから上限数が決められています。

その数は2,100万コインとなっていて、4年毎にその発行量は減少させていく予定になっています。

法定通貨でも大量に印刷しまくれば、紙幣1枚の価値はどんどん下がってしまいます。そういった自体を防ぐために発行量の上限が予め定められています

■管理団体が存在しない

普段、私達が使っている紙幣は、正式名称を「日本銀行券」といい、すべて中央銀行(国)がその発行などを管理・コントロールしています。しかし、ビットコインは、購入や取引する取引所はありますが、管理者や管理団体は存在しません。

■24時間いつでも取引可能

銀行の送金手続きは、銀行の営業時間しか取扱いしてくれませんが、ビットコインは365日24時間、いつでも好きな時に取引が可能です。

6. ICOってなに

仮想通貨の投資を行う上で「ICO」という言葉を聞くことがあると思います。

このICOというのは、新規仮想通貨公開（Initial Coin Offering）の略で、資金調達をしたい企業が独自の仮想通貨を発行・販売することで資金調達を行うための方法のことを言います。

これは、株式を発行して企業が資金調達する新規株式公開（IPO）に似ていますが、証券会社が介入しないので速いスピードで資金調達が可能になります。また、株式のように保有していることで配当金を受け取り続けられる仕組みなどはありません。

運営者にとっては、関係者向けのプレセールや、一般に向けて行うクラウドセールをネット上で行えるので、世界中から短期間で巨額の資金を集めることが可能です。

ICOに投資するメリット、デメリットは次のとおりです。

【メリット】

- ・企業が成長すれば大きなリターンが見込める
- ・発行された仮想通貨を通貨として利用できる
※ビットコインなどにも変えられる（変えられないものもあります）
- ・インターネット上で転売などもできる

【デメリット】

- ・投資する過程では企業の信頼性を見極めにくい
- ・投資しても法的に守られていない
- ・少ない情報で投資を判断しなければいけない
- ・発行された仮想通貨が取引所に上場されるとは限らない

7. ビットコインをタダで貰う方法

ビットコインは取引所で購入すれば手に入れることはできますが、他にも以下のような方法でビットコインを手に入れる方法があるのでご紹介します。

■ビットフライヤー経由でショッピングする

国内取引所のビットフライヤーを経由して、楽天市場やyahooショッピング、ZOZOTOWNでショッピングをしたり、カードを新規で発行したりすると、ビットコインをもらうことができます。

■海外のサイトでビットコインを手に入れる

以下の様な海外サイトでビットコインを手に入れることが可能です。

- ・ Bonus Bitcoin : <http://bonusbitcoin.co>
⇒ 会員登録を行い、クリックするごとにもらえます。
- ・ moon bitcoin : <http://moonbit.co.in/>
⇒ クリックし時間の経過とともにもらえます。
- ・ freebitcoin : <https://freebitco.in/>
⇒ ルーレットがありその数字によってもらえます。
- ・ Field Bitcoins : <http://fieldbitcoins.com/>
⇒ 時間の経過によってもらえます。
- ・ BTC Clicks : <https://btcclicks.com/>
⇒ 広告を見ることでもらえます。

※ご登録・ご利用に関しては自己責任においてお願い致します。

※ビットコインをもらえる条件、内容は時期によって変更になる可能性があります。

■ポイントサイトでビットコインを手に入れる

モッピーやPexといったポイントサイトで、ポイントとビットコインを交換することができます。

- ・モッピー：<http://pc.moppy.jp/>
- ・Pex：<https://pex.jp/>

8. 税金ってかかるの？

ビットコインをはじめ、仮想通貨の売買によって生じた利益は課税対象になり、基本的には「雑所得」に区分されます。そして、給与所得と合算した金額に所得税がかかります。

雑所得が20万円以上の場合、確定申告によって税金を収めなければいけません。

■ビットコインのままなら非課税

所得税の対象になるのは、ビットコインによって実際に利益が生まれた時になるので、ビットコインのままの状態の含み益は課税対象にはなりません。

9. 仮想通貨で成功する秘訣

仮想通貨の投資で着実に成果を上げていくには、手に入れる「情報の質」とそれを手に入れられる「環境」が大きく影響します。

インターネットで検索すれば、いくらでも仮想通貨やICOの情報は見つかりますが、そこに載っている情報が「正しい」とは限りません。

とくに、ICOに関する情報のうちの約8割近くは実態がないものも多く、ただお金儲けのための詐欺のような案件も多数存在しています。そのため、それらの情報を安易に信じてしまうのは大きなリスクを伴います。

そのため、以下のようなポイントを意識していきましょう

■情報源がしっかりしている情報をつかもう

誰が発信した情報なのか？

どこから仕入れた情報なのか？

なぜ、その人の情報を信じられるのか？

これらの根拠をしっかりと確認することが、リスクを減らすためにはとても重要です。

世の中に一般に出回っている情報は、3次や4次情報、もしくは5次情報などがほとんどです。そのため、どれだけ1次情報や少なくとも2次情報のレベルをつかめるかが大事なポイントになってきます。

■コミュニティを利用しよう

仮想通貨はまだ始まったばかりの分野なので、自分一人で調べて、判断して参加していくのは、専門知識がない方にとってはなかなか難しい部分もあります。

そんな時は、信頼できそうな専門家や情報を持っている人をリサーチして、その人が所属しているコミュニティに参加してみるのも一つの方法です。

もちろん、参加する場合もいきなり100%は信頼しないようにしてください。信用しながらも少額から試しに参加して行って、仕組みや内容が理解できてきたら、少しずつ投資額を増やしていくことをおすすめします。

■目的・ルールを明確にしよう

ただ単に「一攫千金を狙いたい」「億り人になりたい」という気持ちだけで仮想通貨の投資やICOに、大きなお金を一気に投資するのはとてもリスクがあります。

- ・何を目的に投資するのか？
- ・いくら位の運用を目指したいのか？
- ・どんなスタンスで投資するのか？

自分の中で、その目的とその目的を達成するためのルールをしっかりと定めておくことで、リスクを最小限に抑えて、堅実な投資運用を行うことが可能になります。

例えばこんなルールを作るのもいいと思います。

- ・ICOへの投資は、余剰資金の10%までにしよう。
- ・アービトラージへの投資は、余剰資金の30%にしよう。

など

よくある5つの質問

以下に、よくある質問をまとめましたのでご参考下さい。

Q1. 自分の仮想通貨は取引所に預けておけば大丈夫？

取引所は、常にインターネットに接続されているため、ハッカーなどに狙われる可能性が常に存在しています。各取引所ごとにセキュリティ対策はおこなっていますが、そのレベルは取引所によっても異なります。

そのため、大きな資産は取引所に置いたままにせず、自分のハードウォレットに定期的に移したり、分散したりする対策は大切です。

Q2. ビットコインの利益には税金かかる？

ビットコインの価格が上がっただけでは税金はかかりません。売却して現金に変えた際に利益が生まれていれば課税対象になります。

他の手段で得た利益も合わせて年間20万円を越えた場合は、確定申告をする必要があります。

Q3. 間違って送金したら戻ってくるの？

仮想通貨は常に自己責任の世界です。間違って送金してしまった場合、そのコインは戻ってきません。

間違って送金したアドレスが存在していなければ送金されずに終わりますが、もし存在していた場合、一度送られてしまったら送金完了となり戻ってきません。そのため、送金前には必ずアドレスをチェックしましょう。

Q4. 売買価格はどこも一緒なの？

取引所によっては、取引量の違いなどの関係から売買価格に差が生まれます。それを利用して利益を生み出していくのが、アービトラージと言われるものになります。ただし、基本的にはそこまで大きな価格差ではないので、あまり神経質になりすぎる必要はありません。

Q5. 仮想通貨は幾らから買えるの

仮想通貨の種類や取引所にもよりますが、一般にはかなり少額から買うことが可能です。

最後に

いかがでしたでしょうか？

このレポートでは、仮想通貨が初めてという方でも、仮想通貨全体の大事なポイントを理解し、今後、仮想通貨の様々なサービスを自信をもって取り組み始められるように基本的な内容をまとめています。

これを機に、今後は仮想通貨の色々なサービスに少しずつ参加しながら、あなたの資産を増やして行って下さい。

また、このレポートの中にも書きましたが、仮想通貨の世界でリスクを回避しながら着実に利益を上げていくためには、より信頼度の高い情報の入手、安心して情報の交換ができるコミュニティなどの存在はとても重要です。

この「情報の質」で、今後あなたが大きく利益を増やせるかどうかが変わってきます。

現在、仮想通貨の分野で世界の中枢に位置する人物から仮想通貨・ICOの最新情報や誰でも無料で参加できるWEBセミナーの情報を常に手に入れるコミュニティなどもございますので、もし興味のある方は、このレポートをご紹介してくれた方にお気軽にお問い合わせ下さい。

このレポートが少しでも、あなたの仮想通貨の知識を高め、今後、堅実に資産を増やしていくためのお役に立てることを願っています。

付録

一覚えておきたい仮想通貨の基本用語一

【ア行】

アービトラージ

各取引所で扱われている通貨の価格の違いを利用して利益を取る取引のこと。裁定取引と呼ばれています。

ICO

Initial Coin Offering（新規仮想通貨公開）の略。仮想通貨が取引所で取り扱われる前に、投資家を募集して資金を調達すること。

アドレス

仮想通貨を送金したり、受け取ったりする際に利用するもので、銀行で言えば口座情報のようなもの。それぞれ独自にアルファベットと数字で構成された文字列になります。

アルトコイン

アルトコインはAlternative Coin（代替りのコイン）の略で、ビットコイン以外の仮想通貨コインのすべてを総称した呼び方。最も有名なイーサリアム（ETH）をはじめ2000種類も以上あり、現在も増え続けています。

暗号通貨

セキュリティ対策として暗号技術が利用されている通貨のことで、一般的に仮想通貨と呼ばれているものもこれに該当します。

ウォレット

仮想通貨を管理するための財布のようなもの。ビットコインを始めとする仮想通貨を受け取るためには、このウォレットが必要になります。

【カ行】

仮想通貨

インターネットを通じて不特定多数の間で物販やサービスの対価として利用することができる暗号通貨。大きな特徴としては、法定通貨のように中央銀行などの中央集権的な公的発行主体や管理者がいなく、専門の取引所を介して円やドル、ユーロなどの通貨と交換することができます。

公開鍵

自分のビットコインアドレスを作成する際にもとになるガギのこと。

コールドウォレット

インターネットとは切り離されているウォレットのこと。USBメモリのように、必要に応じてパソコンにつないで利用するものなどがあります。

【サ行】

サトシ (Satoshi)

ビットコインの最小単位。サトシ・ナカモト氏が開発したのでこの名称になっています。0.00000001BTC = 1 Satoshiで換算します。

時価総額

通貨の発行量と市場価格をかけた数字のこと。

【タ行】

取引所

通貨を購入したい人と通貨を売却したい人の仲介を行う業者のこと。日本国内の取引所と海外の取引所があります。

二段階認証

ログインなどをする際に二重でパスワードをかけること。ハッカーなど悪意のあるものからの不正ログインを防ぐために設定するものです。

【八行】

ハードフォーク

特定の通貨が分裂すること。代表的な例は、ビットコインがハードフォークして生まれたのが、ビットコンキャッシュやビットコインゴールドになります。

BTC

BTCはビットコインの通貨単位のこと。

秘密鍵

ウォレットを作成時に与えられる文字列のこと。自分だけが知ることのできる暗号ですので絶対に他者には知られないようにする必要があります。公開鍵とは別のものになります。

ブロックチェーン

仮想通貨は、一定期間ごとにすべての取引記録を取引台帳に追記することで整合性を管理しています。その追記の処理では、ネットワークに分散されている今までの取引台帳データと、追記の対象期間に発生したすべての取引のデータの整合性を記録されていきます。この取引台帳データのことを「ブロックチェーン」と呼んでいます。

ホワイトペーパー

ICOで出資を募る際、公開する予定の仮想通貨の理念や運用計画、スタッフなどを記した書式

【マ行】

マイナー

仮想通貨をマイニング（採掘）すること

マイニング（採掘）

新たなブロックを生成する報酬として仮想通貨を受け取ること

【ラ行】

ロードマップ

中長期的な計画書のこと。例としては、ICOのホワイトペーパーなどに載っている今後の事業展開など。